

□塩酸バンコマイシンのノモグラムを用いた初期投与設計の妥当性の評価

研究課題名	塩酸バンコマイシンのノモグラムを用いた初期投与設計の妥当性の評価
研究期間	2018年4月1日～2019年3月31日
研究対象	2015年10月から2017年9月までの2年間に、VCMを投与され、薬剤師が初期投与設計を実施し、トラフ値を測定した51症例を対象とする。ただし、ノモグラムの適応外であるeGFR<30ml/分/L73m ² と透析施行症例は除くものとする。上記の方法にて、診療記録から患者の特性をレトロスペクティブに抽出する。
研究目的・方法	塩酸バンコマイシン（VCM）はMRSA感染症の治療に幅広く使用されている。VCMは治療薬物モニタリング（TDM）の対象薬剤であり、定常状態のトラフ値を10～20μg/mlに設定にすることが推奨されている。当院では、主治医の指示のもと全入院患者を対象に、VCM投与開始時に薬剤師が解析ソフトを用いて初期投与設計を実施している。しかし、解析ソフトを用いた初期投与設計では、当直等の理由により迅速に対応できない場合があり、VCMの投与が遅れることが懸念される。日本化学療法学会/日本TDM学会より発行された抗菌薬TDMガイドライン改訂版において、VCMは腎機能別の体重換算で調節するノモグラムによる初期投与設計が勧告されている。ノモグラムは体重と腎機能が判明すれば簡便に初期投与設計を行うことができ、迅速な初期投与設計を可能にするTDMツールとして期待されている。しかし、このノモグラムの臨床的な評価はほとんど報告されていない。よって、本研究においてVCMの初期投与設計に対してノモグラムの妥当性を評価する事は、解析ソフトで生じる時間的問題の解決の一助となり、MRSA感染症治療において極めて重要であると考えられる。
研究に用いる試料・情報	平成27年10月1日～平成29年9月30日までの年齢・性別・基礎疾患・入院歴・服薬歴から得られる情報。 ※個人が特定できる情報や、ID番号は研究には利用しない。研究データ上にも残らないので、本研究から個人情報が流出することは基本的にならない。また、研究の成果を公表するときにおいても個人情報が漏出する可能性は極めて低く、患者様に危険や不利益が生じることはない。
研究責任者・担当者	薬剤科 五十川 達也